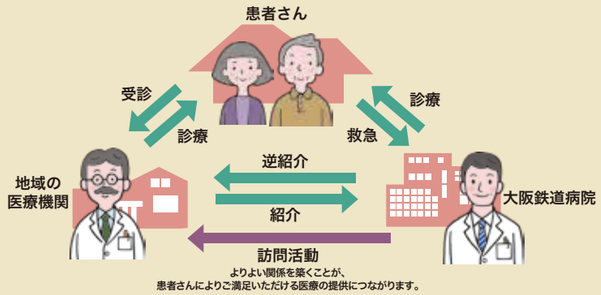
ぽっぽニュース

〈活動のご紹介〉 地域医療連携室の訪問活動

～すべては患者さんのために～

地域医療連携室では、院長や各診療科の医師、担当スタッフが、地域の医療機関を訪問させていただいております。地域医療を担う先生方と実際にお会いして、忌憚のない意見交換をすることが大きな目的です。頂戴した当院への思いやご要望は、院内にフィードバックし、より信頼される医療機関になるために改善につながる取り組みを行なっています。



医療機関のみなさまへ

第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会 誌面開催が終了しました

今年９月10日（土）の開催に向け準備を重ねてきた「第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会」ですが、新型コロナ感染状況を鑑み討議を重ねた結果、集会のかたちをとらない「誌面開催」という苦渋の選択をいたしました。度重なる延期にも関わらずご準備くださっていた関係各位及びご参加を予定くださっていたみなさまには心よりお詫び申し上げます。対面での講演や意見交換が叶わなかったことは誠に残念ですが、この経験を次の機会に生かしてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町１丁目2-22
TEL.06-6628-2221（代表）FAX.06-6628-2287（代表）
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ http://www.jrosakahosp.jp

受付時間／午前８時30分～午前11時00分　診療開始／午前９時00分～
休診日／土日祝・年末年始（12月30日～１月３日）

202210

メディカルぽっぽ vol.15

よりよい医療の始発駅

2022.10

診療科 UPDATE
歯科口腔外科
ドクターインタビュー／医長 三田 和弘
医師紹介／近藤 敬秀

メディカルコラム
「ダニアレルギー」

チーム医療のご紹介
「認知症ケアチーム」

ようこそ臨床検査室

Radiation Station 特別編
「ピンクリボン月間」

栄養コラム

Q&A「医事課」

ぽっぽニュース

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

歯科口腔外科

病院の歯科口腔外科として、
予防医療から応急処置、
専門的な診断や手術など幅広い分野の
診断・診療を通して、地域医療に
貢献しています。

地域の要望に きめ細やかに対応する 幅広く質の高い歯科医療を 安全に提供。

ドクターインタビュー

部長　**三田 和弘**
（みった かずひろ）

専門分野／歯科補綴学
資格／日本歯科放射線学会歯科放射線認定医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、歯科医師臨床研修指導医、日本糖尿病協会登録歯科医

「病院歯科」に求められる役割とは

病院の歯科口腔外科として、第一に求められるのは、地域の一般的な歯科診療所ではできない医療を提供するということです。専門性の高い医療はもちろんのこと、診療所の体制では対応が困難な患者さんを引き受けることができるのも、病院という基盤があるからこそといえます。

特に口腔外科分野においては大学関連病院と連携して高い能力とスキルを持つ専門の歯科医師が常駐し、難易度の高い診断や全身麻酔下での手術、入院にも対応しています。

また、さまざまな疾患で当院に入院、通院されている患者さんへの歯科医療の提供も、私たちの大切な役割のひとつです。口からおいしく食事ができるよう、口腔ケアから摂食・嚥下機能の回復、さらには緩和ケアまで、歯科医師のみならず経験の豊富な歯科衛生士、歯科技工士がチームとして対応しています。

多くの患者さんに安心安全に治療を受けていただけるように、常に誠意をもって地域の先生方の信頼にお応えし患者さんと向き合うことで、期待される役割を果たし続けていきたいと考えています。

病院ならではのメリット

まずは、なんといっても医科歯科連携が取れることです。常に各診療科の医師によるサポート可能な体制ができていて、それが患者さんへの安心安全な医療のベースとなります。また、大阪鉄道病院の擁する臨床検査、画像診断技術を必要に応じてフルに活用できることも質の高い医療の提供につながっています。

歯科口腔外科診療室は病院の２階にありますが、バリアフリーなので車イスでの入室も可能です。歯科用検査機器も最新鋭のものを揃え、診断・診療の精度を高めています。

より多くの患者さんに治療機会を

今後は病院歯科としての機能をさらに生かして、寝たきりなど通院することが難しい患者さんを短期入院で受け入れ、集中的に治療する体制を充実させたいと考えています。やはり口は栄養の入り口であり、歯や口腔は心身の健康の基盤となる場所。痛みや不快を取り除き口から栄養が摂れることは QOL の向上につながります。患者さんやご家族に、治療を受けてよかったと喜んでいただければ何よりの幸せです。

地域の歯科医療の最後の砦として、診療所の先生からのご相談やご依頼にできる限り対応いたしますので、どうぞお気軽にお声がけください。

＜主な検査・治療実績（2020 年度／単位・件数）

●手術	
単純抜歯	592
埋伏抜歯	267
ヘミセクション	3
歯根嚢胞摘出術	13
歯根端切除術	15
歯の再植術	4
口腔内消炎術	27
小帯形成術	1

歯肉歯槽部腫瘍摘出術	5
舌腫瘍摘出術	1
口唇腫瘍摘出術	14
顎骨腫瘍摘出術	2
腐骨除去手術	7
顎骨骨折手術	1
インプラント埋入	16
口蓋腫瘍摘出術	1
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1

口蓋隆起形成術	1
●補綴治療	
歯冠補綴	107
ブリッジ補綴	15
全部床義歯	56
部分床義歯	69
歯科用標準型レントゲン写真	153
オルソパントモグラフ	563
歯科用 CT 撮影	23

口腔外科 医師紹介

口腔外科の豊富な経験とスキルで信頼にお応えします。

専門分野／歯科口腔外科
資格／日本口腔外科学会認定口腔外科認定医、日本口腔科学会認定医、大阪大学大学院招聘教員

医師 **近藤 敬秀**
（こんどう たかひで）

口腔外科はどこを診る科なのか、疑問を持っていらっしゃる方も多いかもしれません。端的には「脳みそより下、鎖骨より上」が守備範囲といわれています。各種の疾患はもちろん、頬骨や顎の骨折などの外傷も口腔外科が治療にあたります。

私はこれまで大阪母子医療センター、がんセンター、一宮市民病院など、それぞれに特徴ある病院で幅広い経験を積んできました。この春より大阪鉄道病院に赴任し、前任者より口腔外科を引き継ぎ、新しい環境にもようやく馴染んできたところです。当院は患者さんが多く、手際よくなおかつお一人お一人に納得いただける診療を進めていくことが重要だと実感しています。幸い、研修医時代を含め、大学病院でその技を身につけてきた自負があり、性格的にもこのリズムでの診療が一番合っている気がします。これからも、できるだけ患者さんをお待たせすることなく、早く巧みにミスのない診療を実践していきたいと思います。

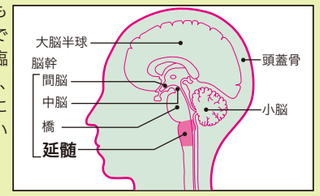
圧倒的に多いのは、診療所では手に負えない親知らずの抜歯手術、また近年では芸能人の罹患などをきっかけに、口腔内のがんを疑って診療に来られる方も増えていらっしゃいます。私自身、多くのケースを診てきていますので、おまかせいただければ、一見して大まかな診断がつき、速やかに必要な検査や適切な対処が可能です。口腔の健康に目を向ける傾向が高まっているのはよいことで、早期発見し早期治療につなげられる患者さんが増えています。

とはいえ、病院の口腔外科に行くとなると、恐れや不安が先に立つ人がほとんどだと思います。当院では、できるだけ和やかに対応し、丁寧に説明をして不安を取り除けるような診療を心がけていますので、どうぞリラックスしていらしてください。

＜研究の現場より＞

誤飲性肺炎の撲滅の一助に

私は大学の医局に所属しているため、臨床と研究の両立が期待されています。現在進めているのは、「延髄（えんずい）」が司る役割のひとつで、嚥下（水や唾を飲み込むこと）を制御する機構の研究です。この機構の研究を進めることで、未だ謎が多い「誤嚥性肺炎」の解明、ひいては予防にもつなげていくことができるかもしれません。臨床で忙しい日々ですが、使命感をもって研究にも力を入れていきたいと考えています。



予防にまさる歯科医療なし

虫歯の治療や入れ歯づくりに長年携わってきて思うのは、失った歯を人工物で補い機能を元通りに回復するのは不可能に近いということです。やはり基本は、自分の歯を守ることが大前提。国民皆歯科検診も議論される今、私も予防歯科医療により積極的に取り組んでいきたいと思っています。

それにはやはり、歯磨き習慣が欠かせません。漫然と磨くのではなく、プラークコントロール、すなわち正しいブラッシングでプラーク（歯垢）を取り除き、口内環境を清浄に保つことがポイントです。できるだけ幼い頃から、磨き残しのないブラッシング法を身につけることです。歯垢染色液を用いるなどして、プラークの付着状態を自分で確認しながら、正しい除去方法を身につけていれば、これほど心強いことはありません。

また、口の中を酸性に傾かせないことも重要です。酸性になっている時間が長いほど、虫歯が進行する危険が高まります。普通に唾液が分泌されていればそれほど神経質になる必要がありませんが、何らかの原因で唾液の分泌低下が起こり、口腔乾燥状態が続く人は要注意。酸性の飲み物や食べ物を口にしても唾液で流されず、酸性に傾くことが多くなるからです。

「どうも口が乾く」「唾液が少ないのではないか」という悩みをお持ちの方は、一度ご相談ください。

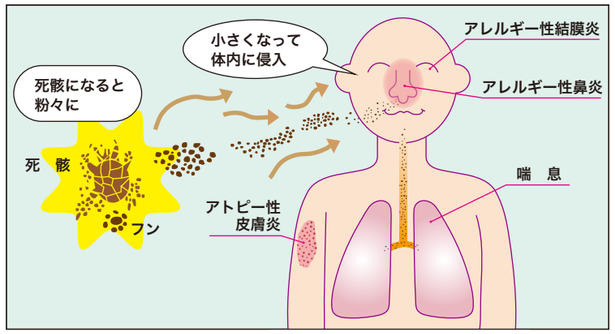
メディカルコラム

ダニアレルギー

少しずつ涼しくなっていく10月。そんな気候の変化とともに、朝起きると水鼻やくしゃみが出たり、夜中に咳が出たりして「風邪かな？秋の花粉症かな？」と思うことはありませんか。しかしそれは、もしかしたらダニアレルギーかもしれません。

ダニアレルギーとは

いうまでもなく、ダニが原因のアレルギー。ダニの死骸やフンに多く含まれるたんぱく質がアレルゲン（アレルギー原因物質）で、小さな粒子となって体内に侵入することでアレルギー症状を起こします。鼻炎や結膜炎だけでなく、喘息やアトピー性皮膚炎の引き金になることがあるので、注意が必要です。



【ダニアレルギーの症状】

アレルギー性鼻炎	くしゃみ、鼻みず、鼻づまり
アレルギー性結膜炎	目のかゆみ、充血、涙、ゴロゴロ感など
喘息	せき、呼吸困難など。小児喘息の原因になることもあります
アトピー性皮膚炎	皮膚のかゆみ、湿疹など

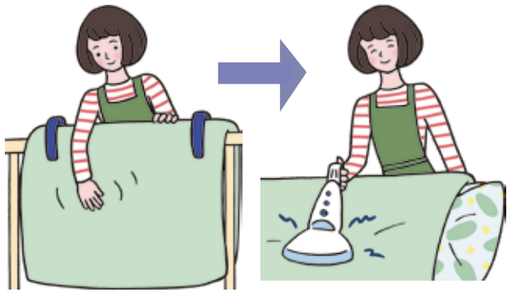
どうして秋に増えるのか？

ダニが繁殖を繰り返し激増するのは、一般的に温度と湿度が高くなる梅雨から夏の間といわれます。そして秋口になると、その死骸やフンの量がピークに達します。つまりアレルゲンの爆発的な増加に伴って、アレルギー反応が起こりやすくなるのが秋なのです。もちろん花粉症は原因の花粉が飛散する時期にだけ起こるのに対して、ダニアレルギーは、ダニの死骸やフンのある場所なら季節に関係なく症状が出ます。より影響を受けやすいのが涼しくなり始める時期ということです。その対策には、まず日頃の管理でダニを繁殖させないことですが、完全にゼロにするのは難しいといわれています。それでも小まめな掃除は、ダニを減らすことにつながります。

特に寝具はダニの温床ともいわれます。死骸やフンが増える秋口にこそ、徹底してアレルゲンを除去することが大切です。

寝具のアレルゲン対策

シーツやカバーを水洗いするのはもちろん、ふとんは湿度の低い晴天時に天日干しして、できるだけ乾燥した状態に。干したふとんは叩くのではなく、クリーナー等で表面の埃に含まれるダニの死骸やフンをしっかり吸い取るようにします。日中に干せない場合は、ふとん乾燥機の利用も有効です。また、丸洗い可能なふとんであればクリーニング店やコインランドリーで丸洗いするのがおすすめです。



干したふとんは取り込む前にやさしくほこりを払ったあと、できれば専用の吸引力の強いクリーナーを全体にかけるのが理想です。

吸い込むタイプ（吸入アレルゲン）のアレルギーは、吸い込むほどに症状が悪化してしまいます。爽やかな気持ちで心地よいシーズンを迎えるためにも、秋のダニ対策を習慣化しておきたいものです。

チーム医療のご紹介

認知症ケアチームの活動

認知症の方に限らず、高齢の患者さんは入院による環境の変化や疾患の苦痛によって、せん妄などの異常行動や不眠、不安などの心理症状を引き起こすことがあります。そういった方々を対象に、医師・看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカーのチームで週1回ラウンドし、さまざまな支援を行っています。患者さんの情報は、各病棟に配置した認知症看護委員会のリンクナースが取りまとめ、チームと連携しています。

認知症看護認定看護師
森田 由紀子

＜各メンバーの役割＞

・**医　師**　専門医としての立場から診療と薬剤の調整※ケアへの助言
・**薬剤師**　患者さんが飲んでおられる薬を把握し、せん妄のリスクになるものをリストアップ、減薬等の調整

病棟の看護師とも情報共有しながら、チームで協働し適切なケアを行なっていきます。

・**看護師**　患者さんの状況を観察し、穏やかに入院生活を送っていただくための対応策を考える
・**医療ソーシャルワーカー**　退院後の生活に向けたご本人やご家族への情報提供、アドバイス

※特にベンゾジアゼピン系の成分が入っている薬はせん妄を起こす可能性が高いので、他の薬に変える、減薬するなどの措置をとっています。ご退院後も、かかりつけ医の先生にご理解ご協力いただけたら幸いです。

認知症やご高齢の患者さんは、痛みや不快感などの不調を言葉にして伝えることのできない方も多く、よく観察して援助につなげることが必要です。私は認知症看護認定看護師としての経験と知識を駆使して患者さんに向き合い、少しでも患者さんが安定される方法を模索しています。また、全職員が認知症を正しく理解してケアできるようにするため、定期的な院内研修で情報共有を行なっています。コロナ禍以降は動画の視聴という形に変わりましたが、自由な時間に見られるため、機会を逃さず学んでくれる人が増えています。

一方では依然として面会の制限など、入院患者さんにとって辛い状況が続いています。何よりの励ましになるのは、ご家族の励ましです。タブレットを経由しての動画によるやりとりやお手紙、交換日記の活用など、これからもご要望を聞きながらできる限りのサポートをしてまいります。

入院後、患者さんがそわそわと落ち着きがなく不穏状態やせん妄状態の時は、状況により24時間のご様子を「生活リズム観察表」を使用して観察し、患者さんの生活リズムを把握することでせん妄の原因をアセスメントして援助につなげるようにしています。疼痛や不穏不眠時の薬剤の効果や投与のタイミングなども、生活リズム表に記入することでアセスメントにつなげやすく、チームラウンドで評価し、アドバイスを行っています。

ご自身がなぜ今ここにいるのか等、口頭だけで説明しても忘れてしまわれる方が多いので、イラスト入りのカレンダーに入院や治療の計画を書き込んだものを常に見えるところに貼っておくなど、視覚からもご理解いただける工夫をしています。

ようこそ臨床検査室へ

【血液検査部門のご紹介】

今回は、血液検査部門の仕事についてご紹介します。

臨床検査技師
（認定骨髄検査技師・認定血液検査技師）
萩原祐至・淺田玲子

血液検査部門では、認定血液検査技師と認定骨髄検査技師の資格を有する技師が、主に以下のような検査を行っています。

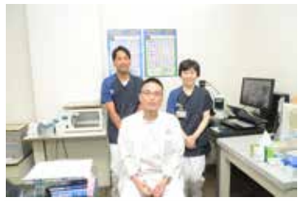
・血液中の細胞（赤血球、白血球、血小板）を測定して貧血や炎症の有無を調べる。
・血液の凝固に関わる因子を測定して、血液が正常に固まるか、ワーファリンなど血栓を予防する薬がちょうどよい塩梅で効いているかなどを調べる。
・血液細胞の悪性腫瘍（血液のがん）である白血病や悪性リンパ腫などの腫瘍細胞を顕微鏡で目視判定し、血液内科の高部長をはじめ４名の医師と相談しながら診断を進める。

さらに当院の血液内科は、全国でも数少ないヒトＴ細胞白血病ウイルスⅠ型（HTLV-1）の診療拠点病院でもあり、HTLV-1 ウイルスに関連した白血病細胞の鑑別にも研鑽を積んでいます。

検査技術の発達した現代でも、血液疾患の診断の一部には検査技師による骨髄の細胞鑑別に依存する疾患があり、日々の自己研鑽は必要不可欠です。現在、認定骨髄検査技師は全国に１９０名ほどと少数のため、日本検査血液学会が育成に力を注いでいるところです。当院は昨年度に認定血液検査技師・認定骨髄検査技師制度の指定施設認定を取得しましたので、後進の育成にも貢献していきたいと考えています。

私たち臨床検査室の検体検査部門はあまり患者さんに接する機会がなく目立ちませんが、検査機器の保守・メンテナンスや精度管理に勤しみ、正確で迅速な検査データの提供に励んでいます。そして、すべての患者さんの診療に貢献する縁の下の力持ちを自負し、誇りをもって業務を行っています。

当院が認定を受けた認定血液検査技師・認定骨髄検査技師制度。2022 年度時点で指定施設は全国で４９施設、大阪府では５施設しかないのが現状です。



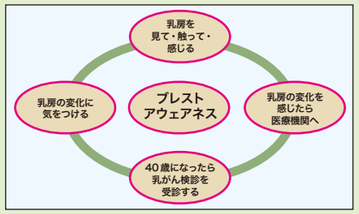
日進月歩の医療に対応すべく、月に２回程度血液内科の間部医師を中心に論文の抄読会を行い、学会発表や論文投稿も行っています。
(2021 年度実績：学会発表２題、論文掲載１編／ 2020 年度実績：学会発表２題、論文掲載１編)

10月はピンクリボン月間

世界規模で乳がん検診の早期受診を呼びかけています。

「ピンクリボン」とは

ピンクリボン (Pink ribbon) 運動は、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期発見を推進することなどを目的として行われている世界規模の啓発キャンペーンです。そのシンボルマークに用いられているのがピンクリボンです。
その始まりは、アメリカの乳がんで亡くなられた患者さんのご家族が、「このような悲しい出来事が繰り返されないように」と願いをこめてつくったリボンでした。
今やその想いが、世界規模で多くの女性に乳がん検診のきっかけを与えています。



「ブレスト・アウェアネス」のすすめ

「ブレスト・アウェアネス」という言葉をご存じですか。「乳房を意識して生活する習慣」という意味で、乳がんの早期発見・診断・治療につながる、女性にとって非常に重要な生活習慣です。自分の乳房の状態に日頃から関心を持ち、変化を感じたら速やかに医師に相談するという受診行動を身につけましょう。

「ブレスト・アウェアネス」4つのポイント

1）自分の乳房の状態を知る
自分の乳房をセルフチェックすることを習慣にすることで、異常があればすぐに気がつくことができます。

2）乳房の変化に気をつける
乳房にしこりはないか／乳頭からの分泌物はないか／皮膚のただれなどはないか／皮膚のへこみやくぼみ、ひきつれはないか

3）変化に気づいたらすぐ医師に相談する
少しでも気になる点があれば、検診を待たずに専門の医療機関を受診しましょう。

4）40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける
２年に１回は検診を受けるようにしましょう。

日本では
9人に1人が
乳がん罹患

当院でマンモグラフィ検査を受けてみませんか？

「ピンクリボン」を乳がん検診のきっかけに！

乳腺診療における画像診断として、有用なのが乳腺 X 線撮影「マンモグラフィ」による検査です。現在、当院放射線科においてマンモグラフィの撮影は３名の女性技師が担当しています。日々、よりよい画像の提供ができるよう撮影技術向上に取り組み、ポジショニングの検討も行っています。

努力の成果は、日本乳がん検診学会や乳房画像研究会のマンモグラフィポジショニングコンテストでの受賞（優秀賞、最優秀賞）にもつながっています。

●大阪市乳がん検診　40歳以上　2年に1回　1,500円
●検査内容　問診およびマンモグラフィ
（40歳代：2方向、50歳以上：1方向）
●実 施 日　毎週水曜（要予約）
●予約方法　1階総合案内に保険証、特定検診の場合は受診券をあわせてご持参の上、ご予約ください。
※電話でのご予約は承っておりませんのでご了承ください。

お問合せ
＜マンモグラフィ検査＞
企画課医事
06－6628－2221（内線）2110～2112
（9：00～17：00／土日祝日を除く）

当院には、「ピンクリボンアドバイザー」認定者がいます。
ピンクリボンアドバイザーの主な役割は、乳がんを正しく理解し、一人一人に寄り添うやさしい社会に向けて活動することです。友人や知人に乳がん検診を勧めたり、イベントを通して検診の重要性を広めたり、乳がんにまつわるさまざまな問題に対して、その解決に向けて活動をしています。
●乳がん検診に踏み切れない方
●乳房について悩みや相談がある方
●ブレスト・アウェアネスについて詳しく知りたい方
当院のピンクリボン・アドバイザーと一度お話ししてみませんか？
＜ピンクリボン・アドバイザーに関するお問合せ＞
大阪鉄道病院画像診断センター
06-6628-2221（内線）2152
（15:00～17:00／土日祝日を除く）

栄養室コラム

果物の栄養を見直そう

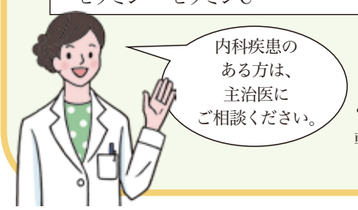
果物には、ビタミン、ミネラル、食物繊維などの他、抗酸化物質やクエン酸などの身体によい成分がたくさん含まれています。今回は、そのなかでも「抗酸化物質」に注目してみました。

抗酸化物質って何？

人の身体は、酸素を取り込み、身体のすみずみに送りこむことでエネルギーをつくり出していますが、それと同時に活性酸素という物質が生み出されます。過剰な活性酸素は細胞を傷つけ、老化やがん、動脈硬化、認知症などさまざまな病気を引き起こす原因になると考えられています。

この活性酸素を取り除く作用がある物質を、抗酸化物質といいます。身体には本来、活性酸素を抑える働きが備わっていますが、加齢とともに働きが低下するので、食事から摂ることが有効です。

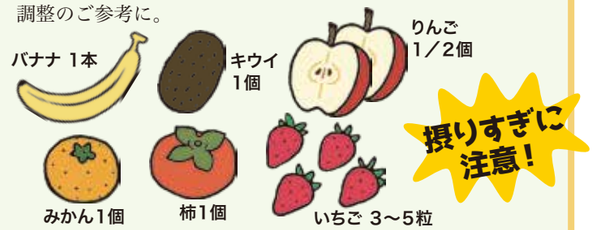
果物に含まれる抗酸化物質
・ポリフェノール・・・アントシアニン、カテキン、エラグ酸
・カロテノイド・・・リコピン、β-クリプトキサンチン
・ビタミン・・ビタミンＣ



抗酸化物質を果物から摂るポイント

・皮まで食べる
果物の栄養素は実よりも皮の近くに多く存在しているので、きれいに洗って皮ごと食べることがおすすめです。

・摂取は１日２００ｇをめやすに
主な果物の１００ｇの量はおおよそ次のようになっています。調整のご参考に。



必要以上に摂りすぎると、中性脂肪や体重が増える原因になりますので、あくまでも適量を心がけましょう。

・摂取のタイミングは朝・昼がおすすめ
朝、昼がおすすめですが、まずは１日の食事にうまく取り入れて、不足しないようにしましょう。

素朴な疑問にお答えします　医事課

よくあるQ&A

患者さんやそのご家族からよくご質問いただくことをピックアップしてご回答いたします。

Q. 保険証は毎月の提示が必要ですか。
A. 保険診療を行っている医療機関は療養担当規則に基づき、患者さんには毎月の保険証の提示をお願いしております。ご協力のほどお願いします。

Q. マイナンバーカードを保険証として使えますか。
A. 一部の医療機関では、マイナンバーカードを保険証の代わりとして使用できていますが、当院は来年4月の開始を目処に準備中です。しばらくご不便をおかけしますが、ご了承くださいませ。

Q. 自動精算機は簡単に使用できますか。
A. 会計番号表示がつきましたら、自動精算機で簡単にお支払いいただけます。会計番号表についてバーコードを読み込ませるか、診察券を機械に入れていただくと、会計金額が表示されます。現金またはクレジットカードでのお支払いが可能です。お困りの際は、周囲のスタッフにご遠慮なくお声がけください。

Q. 大阪鉄道病院でお薬はもらえますか。
A. 当院はすべての患者さんに院外処方箋を発行しています。かかりつけ薬局やお近くの薬局などでお薬をもらってください。
※一部の特殊なお薬については院内で処方する場合がございます。

このほか気になることやご質問がございましたら、気軽にお声がけください。